

主体的に学び、数学的な考え方を育てる授業づくり

神石高原町立豊松小学校

1 はじめに

本校は全校児童 16 名であり、完全複式学級である。児童は算数リーダーの司会によって授業を進めているが、リーダーの指示で与えられた問題を解き、考えを書いたり発表したりしており、主体的に学んでいるとは言いがたい。授業の中で指導者が指導できる時間は半分であり、考えを練り合って数学的な考え方を積み上げる授業もできにくい状況である。また、少人数の中でも学力差が大きいことが課題である。そこで単元内自由進度学習を行うなど、主体的に学ぶ工夫を取り入れれば、主体的に学び、数学的な考え方を育てることができるであろうと考え、実践を行った。

2 実践例

(1) 研究主題

主体的に学び、数学的な考え方を育てる授業づくり

(2) 仮説

学習形態や学習環境、学習材を工夫すれば、主体的に学び、数学的な考え方を育てる授業ができるであろう。

(3) 実践事例

第2学年「100 cmをこえる長さ」

- ① 単元の目標
- ② 児童の実態について
- ③ 自由進度学習について
- ④ 授業の工夫
- ⑤ 授業の実際
- ⑥ 事後協議

3 成果と課題

- (1) 自由進度学習にしたことで、測定する機会が十分に保証され、実感を伴った理解につなげることができた。また「わからないときに調べられる」、「調べればわかる」環境づくりにより、児童の主体的な学びにつながった。
- (2) 自分の考えを説明する機会を設けたり目的に合ったものさしを選ばせたりするなど、思考力を高める手立てが不十分だった。また、考えを伝えあう場面を意図的に設定することができなかった。

4 おわりに

児童の実態や単元の内容に応じて、最適な学習形態を選択し、学習活動を工夫することで、今後も主体的に学び、数学的な考え方を育てる授業づくりに取り組んでいきたい。